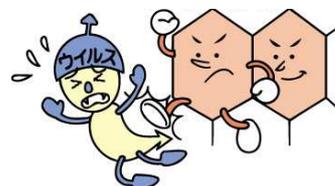


最近、TVや新聞・雑誌で漢方薬の広告を見る機会が多くなりました。漢方が私たちにとって身近なものとなりつつあります。今回は自然治癒力を生かした医学として、関心が持たれている漢方についてご紹介します。

自然治癒力を利用する漢方

(1) 自然治癒力とは

人間には病気に罹ったとしても、自らの体で病気を治して健康に戻そうとする力がもともと備わっています。この力を自然治癒力といいます。自然治癒力は①自己再生機能(傷により細胞が壊れた場合、元通りに戻す力が働く)、②自己防衛機能(体内に細菌やウイルスなどが侵入すると、それらを攻撃する力が働く)という二つの機能があります。この力を利用した免疫療法は血液中のリンパ球を人為的に活性化させたり、増やしたりして、病気に対する抵抗力を高める治療法です。



(2) 漢方とは

自然治癒力を利用した医学に漢方があります。漢方は中国を中心に発達した東洋の伝統的な医学です。漢方では病気を「自然治癒力が低下して、体を正常に維持する力が弱まっている状態」ととらえています。人間の自然治癒力を高めて、健康な状態に体を整えることが漢方の根本です。たとえば、西洋医学では直接、症状を改善するために薬を用いますが、漢方では漢方薬で自然治癒力を補強します。

私たちには「なんとなく疲れる」「食欲がない」といった自覚症状がありながら、検査を受けても病名・病気の特定ができないことがあります。この状態を漢方では未病といい、西洋医学では治療の対象となりにくいものです。しかし、漢方は未病の状態を健康な状態に戻すことを得意としています。漢方は徐々に体質を変えていくため、時間がかかることが多くなっています。したがって、すぐに手術を要する病気、救命措置を要する患者などには西洋医学が第一選択となります。

(3) 漢方は『証(しょう)』をみる

西洋医学は患部となる臓器・器官ごとに調べて病気を診断します。一方、漢方の診断法は患部のみならず患者全体の状態を調べて、診断します。そのため漢方の診断法は「病気をみずに、人を見る」と言われています。漢方では患者の状態を『証』といいます。漢方医は右表のような「四診」という方法で五感を使いながら患者を調べ、『証』を把握します。患者の体質や体力、精神状態なども『証』の判断材料としています。さらに、その『証』から治療方針を決めていきます。これを随証療法といいます。

聞診	話し声、呼吸音、腹部の音などを聞く。口臭、体臭などの臭いを調べる。
望診	体格や顔色、爪、舌の状態など観察する。
問診	自覚症状や本人と家族の病歴などを患者本人から聞き取りする。
切診	脈拍を計ったり、腹部に触れたりして、患者の体に触れて調べる。

その人にピッタリ合う漢方薬を

(1) 漢方薬とは

近年、漢方薬を処方する医師が増えています。また、市販薬の中でも漢方と表示されたものや漢方の成分を配合したものが販売されています。漢方薬はいくつかの生薬(薬用の鉱物や植物、動物の一部を乾燥させたもの)を粉碎し、調合したものです。昔は粉碎した生薬をお湯で煎じる「湯剤(とうざい)」が漢方薬に多い服用法でした。現在では、服用しやすいように煎じた漢方薬をさらに濃縮・乾燥し、細粒・顆粒・錠剤に加工した「エキス剤」や液状の「内服液」「シロップ」もあります。

(2) 処方される漢方薬と市販の漢方薬

漢方薬は市販薬の中にもありますが、本来は漢方医の処方により服用することが理想です。それは、上記でご紹介したように患者一人ひとりの『証』が異なるため、同じような症状でも、異なった漢方薬が必要となるためです。医師が処方する漢方薬は生薬の一部を除き、健康保険適用のものが多くなりました。しかし、街中の「漢方薬局」やドラッグストアなどで市販の漢方薬を購入する場合、健康保険は適用されません。

皆様の安心と安全のプレイントラスト(専門顧問グループ)》

株式会社ヤシロエージェンシーリミテッド 担当: 八城一浩

〒107-0052 東京都港区赤坂3-1-2 TEL: 03-3582-4511